



▼一般会計決算の状況

| 区 分 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------------|------------------|------------------|
| 歳 入 | 1357億1000万円 | 1381億2200万円 |
| 歳 出 | 1334億1800万円 | 1356億 700万円 |
| 歳入歳出差引 A | 22億9200万円 | 25億1500万円 |
| 翌年度繰越額 B | 7億2600万円 | 8億6200万円 |
| 実質収支 A-B | 15億6600万円 | 16億5300万円 |
| 単年度収支 | ▲1億 800万円 | 8700万円 |

※単年度収支は前年度実質収支との差額となります。

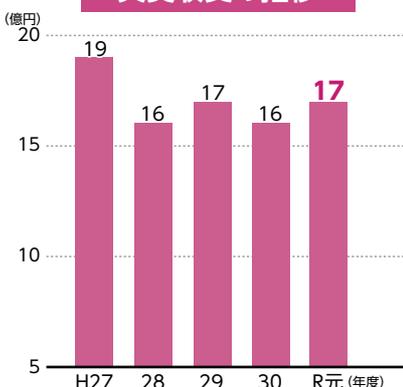
令和元年度決算速報値 実質収支は17億円の黒字

◎財政課 ☎841・1311、☎841・3039

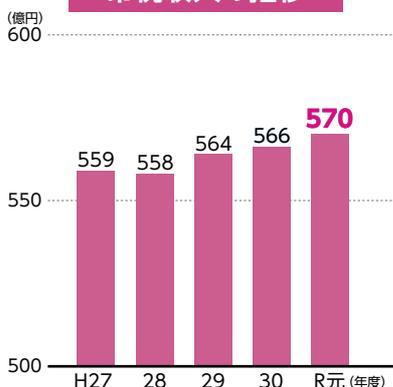
令和元年度一般会計の決算見込みがまとまりました。歳入では、市税などが増加し、歳出では、人件費や公債費は減少したものの、国の幼児教育・保育の無償化などにより扶助費が増加しました。このほか、総合文化芸術センターの

整備や香里ヶ丘図書館と香里ヶ丘中央公園の一体整備などの投資的事業にも取り組みました。自治体の決算を表す実質収支は17億円の黒字となり、単年度収支では9千万円の黒字となりました。

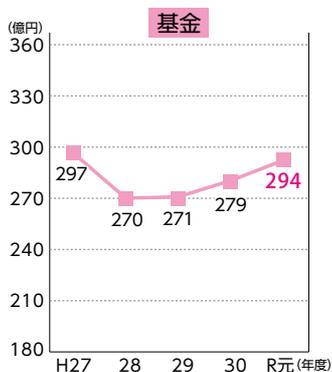
実質収支の推移



市税収入の推移

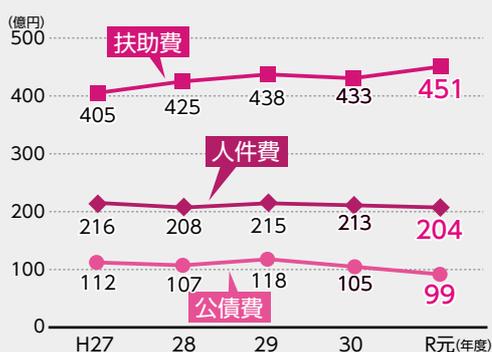


普通会計の市債・基金現在高の推移



市債残高は15億円の増加
市債とは、多額の経費が必要な建設事業の単年度の負担を軽減し、計画的な財政運営を行うために国や銀行等から借りるお金のことです。このほか、地方交付税の不足分を補うための臨時財政対策債という借入金があります。
令和元年度末の市債現在高は、2億6千万円の繰上償還を実施したものの、前年度に比べて15億円の増加となりました。また、令和元年度末の基金現在高は15億円の増加となりました。

普通会計の人件費・扶助費・公債費の推移



経常収支比率の推移

財政の弾力性を示す財政指標。数値が低くなるほど自由に使えるお金が増えることを示しています。



※決算の詳細は広報ひらかた10月号でお知らせします。